

第 21 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016. 3. 17 空田 さやか

ノバルティスファーマ(株)

選択的 DPP-4 阻害薬/ビグアナイド系薬剤配合剤

『エクメット配合薬 LD/HD』

ノバルティスファーマ(株) 伊東さん

場所:コンパス薬局

参加者: 沢先生、内科職員さん、松下さゆり、熊山ともみ、空田さやか

昨今医療費の増加が社会的にも問題となっている。その原因のなかに、飲み忘れによる残薬増加と処方される薬剤量の増加があげられている。このような傾向をふまえ、薬の量や種類の減量とコンプライアンスの向上を目的とした“配合剤”が数多く誕生している。糖尿病領域において薬を2種類以上併用している患者は55%と多い。

今回は、糖尿病領域における新たな組み合わせである DPP-4 阻害薬「エクア」とビグアナイド系「メトホルミン」の配合薬である『エクメット配合錠』について紹介する。

〈効果・効能〉

2 型糖尿病

〈用法〉

通常、成人には1回1錠（ビルダグリプチン/メトホルミン塩酸塩として50mg/250mgまたは50mg/500mg）を1日2回朝夕に経口投与する。ビルダグリプチン50mg 1日2回の単剤治療により効果不十分な場合は、本剤 LD から投与を開始する。

〈特徴〉

- ・最近、メトホルミンが DPP-4 阻害薬に似た作用（グルカゴンシグナル抑制、GLP-1 作動）をもつとの報告があがっており、相乗効果によりさらなる治療効果が期待できると考えられている
- ・「エクア+メトホルミン」は「グラクティブ（ジャヌビア）+メトホルミン」よりも有意に空腹時血糖を下げるといった報告がある
- ・エクメット配合薬が作られた背景には、DPP-4 阻害薬のなかで唯一1日2回服用の「エクア」がメトホルミン（1日2、3回服用）」と合剤が作りやすかったということがあげられる
- ・エクア錠、エクメット配合錠 LD/HD は薬価が87.7円と全く同じということから、合剤になり錠数が減ることにより医療費の削減に繋がる

- ・糖尿病領域における併用薬の組み合わせとして「メトホルミン+DPP-4阻害薬」の割合が一番多いとの報告があげられている

合剤のメリット
・ 服薬する薬剤数が減少
・ 薬剤費用が安価
・ コンプライアンスの向上
合剤のデメリット
・ それぞれの薬用量が固定化する
・ 過度の副作用が起こる可能性
・ 副作用発現時に起因薬剤の特定が困難

〈副作用〉

- ・ メトホルミン、エクア単独に見られる副作用と別の副作用は見られなかった
 - ◇便秘 (2.9%)、アミラーゼ増加 (2.5%) ←エクア由来副作用
 - ◇下痢 (2.1%)、悪心 (1.7%) ←メトホルミン由来副作用
- ・ 全体として 19.9%の副作用が市販後調査による報告された

〈考察〉

医療費問題が大きくなっている中、今後の診療報酬改定により“減薬加算”というものが算定できる可能性があり、多くの配合剤が使用されていくと考えられる。

また、糖尿病の患者さんはその3割程度に飲み忘れがあると報告されており、「服薬アドヒアランスが10%上昇するごとに、HbA1cは0.1%低下する(235例)」との報告があることから、薬局の使命としてコンプライアンスの向上があげられる。従って、飲み忘れの多い患者さんには『エクメット配合薬』のような配合剤の提案をし、コンプライアンス不良によるリスクの意識付けをしっかりと行っていきたい。但し、配合剤により副作用が見えにくくなるリスクがあるので、患者さんには2種類の薬が配合されていること、それぞれの副作用をきちんと伝えていく必要があると考える。